

—ホップ—



学名: *Humulus lupulus* L.

名称由来: ラテン語で ”土”を意味する”humus”とラテン語で“小さなオオカミ”を意味する”lupus”の縮小系で、ホップのツルが他の植物を絞め殺してしまうと謝って考えられていたことによる。

科: Cannabaceae (アサ科)

属: *Humulus* (カラハナソウ属)

原産地: 湿滞湿潤気候に属する世界各地で栽培されている。生産の中心地はドイツのハラタウ地方、米国ワシントン州のヤキマバレーとオレゴン州のウィラメット溪谷、アイダホ州のキャニオン群、英国ケント州。日本では長野や北海道で栽培。

形態: 7m までに育つ背の高い蔓性多年草。葉は卵形で3中裂、雌雄異株、雌花は長楕円形のまり状で苞が松かさ状に重なって球果となる。

主成分: humulone, lupulone などの苦味成分、フェノール性タンニン、フラボノイド、揮発油、エストロゲン様物質、アスパラギン

用途: ビールの苦味剤、苦味健胃薬、鎮静薬

使用部位: 雌花穂の腺体

伝統療法では不眠の治療や不安の軽減、胃の不快感の緩和、月経痛の緩和などが示唆されている。ホップには抗酸化物質が豊富。骨粗鬆症の治療や予防にも効果がある有機化合物を含んでいる。ホップの花言葉は“希望”“軽快”。

参考文献

薬用植物学 改訂第7版 監修水野端夫 南江堂 p18 116

ハーブ&スパイス大辞典 日本語版監修 ナンシー・J・ハジェスキー 著 p46, 47

世界薬用植物百科事典 原著 A. シェヴァリエ 誠文堂新光社